

平成17年 5月19日

各位

日本共産党岡山市議団  
団長 田畑賢司

声 明

岡山市議会議長をはじめ平成17年度、18年度の市議会役員人事及びその構成を決めるための岡山市議会臨時議会が5月16日、17日の2日間の日程で招集された。わが党市議団は岡山市議会が萩原誠司岡山市長の独断専行を追認する議会と成っている現実を憂え、「議会が議会としての真の役割を取りもどし、議会のチェック機能を強化すること。そして、それを足がかりに市民のくらしの前進を図ること」を目標としてこの臨時議会に臨んだ。

議長選は、再選をめざす垣下文正前議長（新風会・公明党—24人）と再登板をめざす宮武博元議長（政隆会—10人）を軸に多数派工作が展開された。わが党市議団は議会のチェック機能を取りもどすため、市長与党の新風・公明ブロックに対抗する枠組みを親和クラブの亀井章氏などと模索していたが、諸般の事情から17日深夜の段階ではまだその機が熟するには至っていなかった。

市長与党を自認する政隆会から宮武氏への投票依頼が幾度もあったが、わが党市議団が無原則的に宮武氏を支持することができないことは自明の理である。そこで、議長選は膠着状態のまま会期が1日延長された。

事態は18日未明に動いた。宮武氏が議長選から降板する決断を伝えに来られた際、政隆会の幹部諸氏と話し合った。しかし、すぐには事態が変わらず、その後、幾度かの話し合いの末、議会の権能を取りもどし、市民のくらし・福祉の前進をはかるための枠組み、「大連立」構想が現実のものとなる機運が生まれた。政隆会から「宮武氏が降板し、萩原市長の市政運営に批判的な親和クラブ・花岡氏の支持に回り、大連立構想で動く」との確約を得た。そこで、花岡氏と議会改革の協定書を取り交わし、同氏を支援した。この間、公明党及び新風会の役員幹部から「共産党と手を組むのか」との烈しい反共攻撃があったにもかかわらず、市長与党の公明党との枠組みよりも議会の権能と市民のくらしを大切にしようという共産党との枠組みを優先した政隆会、無所属市民の会、ゆうあいクラブ、親和クラブの諸氏の勇気と誠意に敬意を表したい。

その結果、花岡氏28票、垣下氏24票という投票結果で花岡氏が議長に就任した。しかし、これは議会改革の第一歩を踏み出したに過ぎない。問題はこれからである。わが党市議団は、萩原誠司岡山市長の暴走をくい止め、市民のくらし、福祉、教育の充実と前進をめざしてさらに奮闘することを表明する。